出羽島の生活誌

坂井康広

Ⅰ はじめに
Ⅱ 聞き取り調査報告
1) 子ども
2) テレビ
(a) テレビ文化
(b) 事例
3) 釣り
4) 出稼
Ⅲ おわりに

Ⅰ はじめに

出羽島は牟岐港から海上約 4km の距離にある，面積 0．65km^2，周囲 3.1km の小島である。出羽島は 1995 年の国勢調査において，人口総数 188 人のうち老年人口がほぼ半数の 93 人を占めるほどの高齢化社会の島である。1999 年 9 月に行った調査時点では，老年人口が島の人口の半数を超えていたと予想される。一方，1999 年 9 月現在で未成年人口は 5 人と少ない。その内訳は高校生 1 名，小学生 3 名，幼児 1 名といった状況である。このような離島の高齢化社会の中で人々はどのように暮らしているのか。出羽島における生活の実態を追うことが本報告書の目的である。調査は聞き取りで行った。

Ⅱ 聞き取り調査報告

1) 子ども

出羽島には出羽小学校があるが，1999 年 9 月現在休校状態である。そのため，生徒，児童，幼児は連絡船に乗って四国本島にある学校および保育所に通っている。

高校生は朝一番の午前 6 時 30 分の便で出羽島を出港する。小学生は午前 7 時 25 分の便で登校する。幼児は午前 9 時ちょうどの便で父親とともに牟岐に出ていく。小学生および幼児がそれぞれ通う牟岐小学校，西部保育所は牟岐港からわずかの距離にあり，徒歩でも十分に通学できる。帰りは牟岐港を午後 4 時ちょうどの便で出ることが多いが，最終便の午後 5 時 20 分に出ることもある。出羽島内におけるアクセスは自転車および徒歩である。なお連絡船内には地元新聞紙や全国新聞紙のほかにマンガ雑誌がおかれており，登下校途中に読むことができる。

出羽島には同年代の友達が少ないため，できる遊びも限られてくる。魚取りおよび釣り

が一般的で，一人は出羽神社の前でフリスビーをしていた。広い空地としては，民家が密集している街中には存在しないが，休校となっている出羽小学校のグラウンドがある。

出羽島は四方を海に囲まれて，また灯台や国指定天然記念物「シラタマモ」の自生地である大池などが存在し，遊歩道も整備されている。このように自然環境には恵まれているが，子どもの数が少ないため教育的な環境に恵まれているとは言い難い。島内の小学生が，校区が出羽島に限られている出羽小学校に通うよりも，連絡船を用いてでも牟岐市街地にある牟岐小学校に通うほうが，より多くの児童と接触する機会があるため，教育的社会的見地からしても望ましいと思われる。

連絡船の中で登校中の児童にテープレコーダーを渡して何か歌ってくれと催促したところ，「私しゃ出羽島　漁師の娘～」と出羽島小唄（図 1）を披露してくれた。幼いながらも出羽島を愛する気持ちをかいまみることができた一時であった。

出羽島小唄

一、私しゃ出羽島漁師の娘（ヤーレ）
　かいやろの音で目をさます
　（はやし）ヨイショ　デカノーエ
　　（以下同じ）

二、一里はなれて　波間にうかぶ
　あれは出羽島おらが島

三、島をとりまく　つきせぬ宝
　貝やテンヤの海の幸

四、島で名所は大池に小池
　眺めゆかしや蛇のまくら

五、まって幾夜の便りをのせて
　今日も通うか大生丸

六、赤い夕月の波間をわけて
　帰りくるのは　主の舟

図 1 出羽島小唄の歌詞

注）出羽島観光パンフレットより転載。

2) テレビ

(a) テレビ文化

人々が手軽に得られる娯楽・情報の媒体としてテレビ放映があげられる。

徳島県におけるテレビ局は四国テレビ（本社：徳島市）しかないが，徳島県で実際にテレビに映る地上波放送局は四国テレビの他に，ＮＨＫ総合，ＮＨＫ教育，毎日テレビ，ＡＢＣテレビ，関西テレビ，読売テレビと計７局存在する（表 1)。四国各県における地上波放送局数は香川県７局，愛媛県６局，高知県５局であるので，徳島県はテレビ放映の面では優遇されるといえよう。

表1　四国で放映される民放局の放映圏

県	民放局	本社所在地	放映圏（府県）
徳島県	四国放送	徳島市	徳島
	毎日放送	大阪市	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島
	朝日放送	大阪市	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島
	関西テレビ	大阪市	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島
	読売テレビ	大阪市	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島
香川県	瀬戸内海放送	高松市・岡山市	岡山・香川
	山陽放送	岡山市	岡山・香川
	岡山放送	岡山市	岡山・香川
	テレビせとうち	岡山市	岡山・香川
	西日本放送	岡山市	岡山・香川
愛媛県	南海放送	松山市	愛媛
	愛媛放送	松山市	愛媛
	あいテレビ	松山市	愛媛
	愛媛朝日テレビ	松山市	愛媛
高知県	高知放送	高知市	高知
	テレビ高知	高知市	高知
	高知さんさんテレビ	高知市	高知

さらに，徳島県で放映される四国テレビ以外の民放各局はすべて本社を大阪市におくテレビ会社である。これらのテレビ局は滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県と関西広域に放映しており，徳島県は四国でありながら関西圏と同じテレビ番組を享受できるわけである。また徳島県は場所によってはテレビ大阪やテレビ和歌山も受信される。本調査で泊まった出羽島の宿舎ではテレビ和歌山が受信されていた。しかし，これらの在阪テレビ局ではニュース番組はローカル版でも関西中心であるため，徳島におけるニュースがおろそかにされることは否めない。

徳島市は，高速船で徳島港から大阪天保山へ約２時間，関西国際空港へは 90 分弱でたどりつける位置にある。また 1998 年４月に開通した明石海峡大橋により，大阪市および

神戸市へのアクセスが容易になり，高速バスで徳島駅前から大阪梅田へ2時間50分，神戸三宮へは2時間で行けるようになった。

このように徳島市は大阪，神戸といった大都市への時間的距離が短くなった。しかしながら，牟岐町は徳島市から約70kmの距離があり，特急で1時間強，普通列車や自動車では2時間近くかかる。さらに出羽島へは牟岐から連絡船が1日往復6便，計12便しか就航されていない。

地上波放送に関する娯楽・情報の点では，出羽島も四国本島も関係ない。問題は牟岐町，徳島市，さらには大阪，東京などから送られる財・サービスの到達といえよう。

(b) 事例

出羽島で60代後半とみられる女性に聞き取り調査を試みた。

趣味はテレビ鑑賞で，朝昼のテレビ小説や21時くらいに始まるドラマを見ている。しかし夫が野球好きで，ナイターが終わるまでチャンネルを回せないという。出羽島ではプロ野球に関しては巨人ファンが多く，昼寝して夜起きてナイターを見て一喜一憂しているという。

またテレビは老人だけでなく，島の小学生の数少ない娯楽の一つである。

3) 釣り

出羽島における最大の娯楽といえば釣りであろう。出羽島は大島，津島とともに磯釣りのメッカで，島の至るところで釣りができる。また磯釣りだけでなく船釣りも楽しめる。

『SHIMADAS』(日本離島センター編，1998，p.265) は出羽島を魚貝類が豊富であると紹介して，テングサ，アワビ，トコブシ，タイ，アマダイ，イトヨリ，ハマチ，メジロを特産品としてあげている。

『ふるさとマップ 最新版徳島県万能地図』(徳島新聞社事業局資料出版部編，1998，p.95) には出羽島で釣れる魚として，グレ，ブダイ，アイゴ，ボラがあげられている。

1999年9月7日に荷揚げされた魚介類は，アマダイ，レンコダイ，イトヨリ，タイ，ガシラ，イサキ，突ハス，アジ，イカ，シオ，カツオなどである。これらはいずれも近海で獲れた魚介であるので，磯釣りでも船釣りでも釣ることができる。

出羽島は釣りの名所であるため，島外からも釣りをしに出羽島へ来る人もある。出羽島内で釣り人が最もよく集まる場所は灯台のある突堤である (写真1)。

写真１ 出羽島釣りの名所・突堤

９月７日に調査に出かけたとき，突堤には４人いた。牟岐在住の男性（Ａさん），海部郡外在住の男性（Ｂさん），仕事帰りの男性（Ｃさん），連絡船の男性船員（Ｄさん）である。いずれも出羽島外在住者で，前者２人は釣りを目的で島に来た人たちであり，後者２人は仕事で出羽島に来て，仕事の途中あるいは帰りに突堤に寄った人たちである。

Ａさんは牟岐町出身で，大阪で会社を経営していたが，３年前に牟岐に帰ってきた。それと同時に釣りも始めたが，まだ初心者である。

Ｂさんは海部郡外に住んでおり，出羽島に限らずいろいろなところで釣りをする。この前は足摺岬の沖の島で釣りをしたという。離れ小島が好きなようである。今回はカツオ釣りが目的で，まずアジでイカを釣り，そのイカでカツオを釣り上げるという。昔は出羽島内に民宿があり，よく民宿に泊まっては島内で釣りを楽しんでいた。朝食後すぐに釣りに行けて，夜は酒を飲むなど自由に行動できた。今回我々が泊まったような貸家の存在は知っていたが，食事などで迷惑をかけるのが嫌であるため日帰りする。帰る便は気分次第であるが，最終便かその前の便が多い。結局この日は小物を数匹釣っただけであった。

Ｃさんは左官の仕事で出羽島へ来て，仕事の帰りに突堤に釣りを見にきた。

Ｄさんは連絡船が出羽島港に停泊中に突堤にやって来た。牟岐港では停泊中は事務所につめるが，出羽島では **12:20** に出港するまでは主に漁協で手伝いをして，**15:00** の出港までは家にあがりこんでゲームをしたり，突堤で釣りをしたりするという。

同日の夜，連絡船停泊所へ出かけると女性２人が釣りをしていた（Ｅさん，Ｆさん)。両者とも出羽島在住の60代である。

Ｅさんは生まれも育ちも出羽島で，昔は漁協に勤めていた。当日はかなり快調な様子で，マメアジを50匹ほど釣り上げていた。小学生の頃は児童も100人を超えるくらいいて，島には活気があったという。子どもの頃は島の山林部にいるカニを捕まえるなどして遊んでいた。子どもは牟岐町内に住んでおり，たまに島に孫を連れて遊びに来る。翌日も連絡船停泊所で孫と一緒に釣りをしていた。

Ｆさんはあまり釣れないようで無口であった。

4）出稼

『牟岐町史』は大正・昭和初期における出羽島の遠洋漁業の様子を以下のように記している。

「又出羽島漁民は地元だけでなく，神奈川県三崎・静岡県焼津・和歌山県勝浦方面への進出も活発であり，中でも寺島光太氏は日本一の漁撈長といわれ，出羽島出身の船頭は二〇人を越す有様であり，出羽島は完全に遠洋漁業の島として全国にその名を知られてきたのである。」（牟岐町史編集委員会，1976，p.613）

また戦後における遠洋漁業については以下の通りである。

「ごたぶんにもれず出羽島も沿岸漁業の不振がおし寄せてきていることをあらわしている。然しカツオ・マグロ漁業である遠洋漁業への進出はめざましく，戦時の好況から若者の従事者は急増し，約二〇〇人近くが神奈川県三崎・静岡県焼津・和歌山県勝浦へと出漁し，それぞれ船長・船頭・無線長・機関長・甲板長等，遠洋漁業の中心的存在であり，出羽島出身者は広く世界中に活躍しているのである。」（牟岐町史編集委員会，1976，p.613）

牟岐町は戦前から遠洋漁業の島として知られており，戦後も沿海漁業が衰退するなか，遠洋漁業に関しては活況であったことがうかがえる。

また日本地誌研究所編（1969）の『日本地誌』は，出羽島での出稼漁業の実態を以下のように記している。

「出羽島（周囲約4km，1965年戸数189，人口779）では，一本釣り・延縄を生かして，高校生を除く15～45歳の男子の大部分が三崎・勝浦・焼津を根拠地とするかつお・まぐろ漁業に従事する。この島の出かせぎ漁業従事者は150人で，出かせぎ漁業従事者のない漁業は皆無といってよい。これら出かせぎ者は，年に数回しか帰島しないため，出羽島は老人と婦人・子供の島となり，沿岸漁業は老人たちによって細々とつづけられている。しかし，出かせぎ者からの送金により，経済的にはかなり恵まれている。」（日本地誌研究所編,1969，p.404）

しかし，これらが発行されてから30年近く経っているため，今回の調査時点で当てはまるものではなく，出羽島における出稼漁業は衰退した。しかしながら，出稼に関しては今なお続いている。

今回の調査では，出稼をして島に帰って来ているという50代の男性（Gさん）に話をうかがった。Gさんは島の小学生の祖父で，港で寒天の原材料であるテングサを干していた。テングサ採取のシーズンは5月頃であるが，今回のテングサはゴミと一緒に近海で浮いていたのを集めてきたものという。出羽島生まれで，若い頃は遠洋漁業に従事していた。マグロ漁業が主で，チリ，南氷洋，ケープタウン，アフリカをまわった。25人くらいの小さな船で，専門の食事係がいた。仕事は網をあげたり，機械のオペレーターを担当したりした。網あげ作業は今では機械で行っており，従業員も一船あたり15人程度であるという。現在は新日鉄のタンカーに乗り込んで，北九州と東京を往復している。しかしながら，出稼はもうやらないと言っている。

Ⅲ おわりに

以上，出羽島における生活の実態を，子ども，老人，島に釣りをしに来た人に聞き取って記した。離島という閉ざされた環境の中で，しかも年々人口が減りゆくなかで，娯楽といえるものはテレビとか釣りといったものしかなく，また未だに生活を出稼に頼っている現状もかいまみえた。大都市で生活を送っている筆者からみれば離島の生活は不便であると思えてくる。しかし，彼らは（彼女らは）彼らなりに（彼女らなりに）生きているのである。この現実を無視してはならない。

〔付記〕今回の聞き取り調査でお世話になった出羽島内外の方々に，末筆ながら厚く御礼申し上げます。

参考文献

徳島新聞社事業局資料出版部編（1998）:『ふるさとマップ 最新版徳島県万能地図』徳島新聞社，123p.
日本地誌研究所編（1969）:『日本地誌 第18巻 香川県・愛媛県・徳島県・高知県』二宮書店，551p.
日本離島センター編（1998）:『SHIMADAS』日本離島センター，1151p.
牟岐町史編集委員会編（1976）:『牟岐町史』牟岐町，1383p.